

かつどうほうこく **活動報告**

●平成30年11月27日 (火) 18:30~20:30 豊平区保健センター2階 講堂 「はっかいどういぶりとうぶじしん」 また かえ じぎょうしゅべつ グループワーク 北海道胆振東部地震の振り返り (事業種別グループワーク) さんかしゃ めい たくさん ぎろん きづ かだい はな あ しょうさい さいご 参加者40名で沢山の議論と気付いたこと、課題など話し合いました。詳細は最後の 2



ページに載せましたのでご覧ください。







さっぽろしじりつしえんきょうぎかいとよひらくちいきぶかい こうほう だい ごう ねん がつ 札幌市自立支援協議会豊平区地域部会 広報 第35号 2019年3月 へいせい ねん がつ にち か とよひらく ほけん かい こうどう

▶平成31年2月26日(火)18:30~20:30 豊平区保健センター2階 講堂 せいかつか い ご じぎょうしょしょうかい

生活介護 事業所紹介

がくえん つぎ しゃかいふく しほうじんくさ み かいひらぎし さと さんかしゃ さいしょ さっぽろしだいに 参加者67名 最初は札幌市第二かしわ学園、次に社会福祉法人草の実会平岸の里、最後 きほんてき じぎょうないよう しゃかいふく しほうじんけいわかい に社会福祉法人桂和会くりのみハイムのそれぞれの基本的な事業内容、こだわりなどをお 話ししていただきました。

きほんてき き せんたく い りようしゃ みなさん、レクレーションに「選択」を入れたり、基本的に決まりをつくらず、利用者さ す こと ひ だ こじん だいじ んの好きな事を引き出すため、個人を大事にして「いいですね!やりましょう!!」を あいことば かんどう 合言葉にしているなど、とても感動しました。





こんご よてい きょうりょく もよお ふく き後の予定(協力する催しも含む)

へいせい ねん がつ にち とよひらく ほけん かい こうどう 平成31年3月26日(火)18:30~20:30 豊平区保健センター2階 講堂

キャリア別茶話会

べつさわかい

べつさわかい おこな おな たちば ひと こんかい ねんどさいご れいかい 今回は30年度最後の例会として、キャリア別茶話会を行います。同じような立場の人 じょうほうこうかん なや そうだんとう あつ たちで集まることによって、情 報 交換やお悩み相談等、 ざっくばらんなグループワークが おも できればと思います。

へいせい ねん がつ にち か とよひらく ほけん かい こうどう ●平成31年4月23日 (火) 18:30~20:30 豊平区保健センター2階 講堂

そうかいあんどせつぐう こうざ

総会 & 接遇マナー講座

こうし まつもと ゆうこ 講師:松本 裕子 (キャリアバンク) さいしょ ふん そうかい こ せつぐう

最初の30分が総会で、その後が接遇マナー講座です。

ひと さんか

新人職員さんも、そうでない人も、たくさんの参加をお待ちしています。

さっぽろしじりっしえんきょうぎかいとよひらくちいきぶかい こうほう だい ごう ねん がっれ幌市自立支援協議会豊平区地域部会 広報 第35号 2019年3月

れんぞくきかく むちゃぶり連続企画 事業者紹介リレー!

きかく まいかい かしょ じぎょうしゃ じこしょうかい じぎょうしゃ つぎ じぎょうしゃ

この企画は毎回 1ヶ所の事業者に自己紹介をしてもらい、その事業者が次の事業者をしかい はんきょうせいてき とよびらく じぎょうしゃ もうら もかく 指名し、半強制的に豊平区の事業者を網羅しようという、むちゃぶり企画で一す!!

事業者紹介の内容は、A4、1枚程度で、パンフレットに載るような基本的な情報も良いのですが、できれば普段あまり紹介されないことや、熱い思いなど、積極的にPRしていただけたらいいな~と思います。

第35回目は「 医療法人社団 高台病院 』(次のページ)です!!

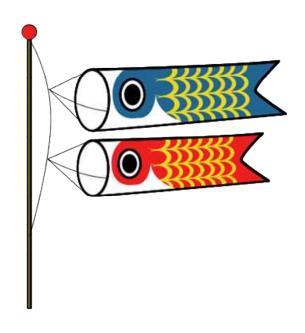
へんしゅうこうき 編集後記

あら こんねんど ☆ (荒) 今年度ももうすぐ終わり、すぐに新年度になります。 しんねんと 新年度あたまにとよフェスがあります。 とよフェス、がんばりましょう!

こぐま ことし ゆきど はや
・(小熊) 今年は雪解けが早いですね。

- (るま りょうしゃ ほんとう

車 イス利用者にとっては本当にたすかりますね!!



いりょうほうじんしゃだん たかだいびょういん 医療法人社団 高台病院 と

と申します。

また病院とは別に、

にんちしょう かた きょうどう せいかつ いまれたらしい わがや」としてグループホームはしどい、認知症の方が共同で生活する、『新しい我が家』としてグループホームはしどい、

ちいき せいかっしゃ じりつ めざす 地域で生活者として自立を目指すための『家』、グループホーム晴和があります。



生きることに悩み、疲れた時、精神のあり方に疑問をもった時など、ぜひお気軽にご相談ください。

○ 医療法人社団 高台病院

さっぽろしとよひらくひらぎし7じょう12ちょうめ 札幌市豊平区平岸7条12丁目1一

- 3 9 011-831-8161
- ぐるーぷほーむ ぐるーぷほーむせいか グループホームはしどい・グループホーム晴和

さっぽろしとよひらくみその3じょう8ちょうめ 札幌市豊平区美園 3 条 8 丁目 4 - 5 011-831-2181

| 項目 | できたこと | 困ったこと | あったら良かったこと |
|-----------------------|---|--|--|
| 停電 | ・社用車で携帯の充電をした。 ・サ高住の電源で電気を確保した。また、職員同士でライトを融通した。(居宅) | ・ろうそく使いたい人がいたが、火事の危険があるので、利用させず(GH?)・充電が出来なかった。・ガソリンの行列。・安心コールが使えなかった。 | ・手回し式の充電器・電子カルテなど、電気がなくなっても対応できるようにアナログ(紙ベース等)の対応をしておく。・ヘッドライトは良かった。 |
| 断水 | ・GHの断水はずんどうで配ったり、袋で水を運んだ。 | トイレの水が流れなかった。トイレ用の水が足りなくなった | |
| 食料 | ・備蓄がたくさんあった(GH、就労系の事業所) | おやつしかなかった。 食糧の調達が大変(GH系)。 送迎が出来なかったので休んだ(就労)。 利用者も含めてスーパーで並ぶ。(GH) 3食の確保が大変(GH) 入居者も食料を用意しておく。(自活できるように。) | ・備蓄の食糧があったほうがいい。(児童)・お米さえあれば何とかなる。(就労) |
| 情報収集の 方法など | ・タブレットでTV ・SMS (ショートメッセージサービス) はつながった。 (業務連絡できた。) ・ラジオからの情報が有効的だった。 ・連絡先のわからない人の連絡先を区に教えてもらった。 | ・電池がなくてラジオが聞けなかった。ライトが無くて明かりが困った。携帯の充電ができなかった。 ・誤情報で利用者さんが不安になっていた。 ・SNSのデマが広まり困った。 ・公衆電話は繋がったので安否確認に使えた | ・コンビニ等で掲示板があれば良かったのでは?・福祉避難場所の場所を知っておくべきだった。(利用者に聞かれた。) |
| マンション等 での移動 | ・そもそも上階には住まないように勧めている。 | 1人のヘルパーでは移動は無理。オートロックが開かなくなった。物資を運ぶにしても高層階へは大変。 | ・利用者の住環境の確認。 |
| 交通手段 (社用車の活 用等) | ・車より自転車が使えた。バイクも良かった。 | ・外出を控えるように言っても、通所先に行 く人を送った。(GH) | 信号が無い方が交通マナーが良い。自転車は便利。 |
| 利用者の 安否確認 | ・訪問出来る人には訪問した。(利用者の近くのヘルパーがそれぞれ確認。遠くの利用者へは訪問して対応。)相談支援事業所も、訪問出来る人には訪問した。 ・人工呼吸器装着者など医療的なケアが必要な方はスムーズに連絡できた。 ・携帯に連絡先を入れておいたので、連絡で来た。 ・民生委員にも動ける人に動いてもらった例があった。 | ーション支援が必要だった。 ・利用者の安否確認が重なってしまった。(職員間の連携不足) | ・地域や町内会の安否確認。 ・バイクに乗れる人がいると安否確認早い。 ・利用者さんの安否確認の優先順位をつけておいたらよかった。 ・利用者さんの連絡先をネットで見られるようにしておく。(→個人情報保護の観点も必要) |
| 事業所の体制・備え | ・1週間前に避難訓練があったので、良かった。(GHで訓練で決めた避難所場所に集まっていた。)また、日ごろから事業所として町内会に参加しており、地震当日に町内の人が何名か見に来てくれた。 ・他の事業所の方から何かあったらスタッフも派遣できると連絡があり、ありがたかった。 ・蓄電池を使い、外来対応も可能だった。(医療) ・職員同士で連絡がとれた。(LINEの活用) ・落ち着いてから、利用者に避難地図などを配布した。 | 事業所としての備蓄がなかった。停電時の職員の動き(事故とか労災に該当するのかなど) | ・百均のLEDランプがあったら良かった。 ・乾電池は備えておくべき。 ・連絡網があったら良かった。(就労) ・職員間のマニュアルがあったら良かった。 ・備えはしておくべき。避難所も確認しておくべき。 ・入居者同士もどうやり取りしていくか(GH) ・職員間の連携 ・避難所に行けない人のために、相談室に布団等備えておくとよいかも。 ・町内会や民生委員さんと連携できるようにしておく。(相談) |
| 事後の対応 | ・心のケアのプリント配布(札幌市HP) ・避難所での経験を貴重なものとして捉え た。 | ・開所か安全か、判断がつかない。停電がなかったらやっていたのか、判断の難しさ(就労)。 | |
| その他 | ・子ども達は学校や事業所が怖い場所と認識 しなかったので、通所に問題なかった。 ・開所出来た事業所は利用者が来てくれた (就労) ・ギター弾き語りやトランプをして過ごした (GH利用者同士の交流になった。) | ・利用者の災害時の対応能力が低いことがわかった。(知的障がいの方で、普段は出来ているが、応用が利かない。) ・在宅の重度の人の日中活動が休みになったので、ヘルパーの調整が大変だった。 ・避難所の利用について、身体障がいの方は避難所の利用が安心だと思うが、知的・精神などの方は環境が変わることで不安定になる。 ・サービス提供がなくなった(通所、ヘルパー等、提供してもらえなくなった。) | ・普段から今回のことを契機に、備えやスタッフが行けない時のことを考えておく。(居宅) ・同じ地域の事業所間の連携。(車の融通や食料の調達などの協力体制) ・避難地図に公衆電話の場所の記載があれば良い。 |
| 確認してみた いことなど | ・GHは強い。そこに集まれないか。・ヘルパーの機動性は強い。役割分担で地域ごとに安否確認できないか? | | ・近くの作業所さんがどうしていたのか。・他の作業所がどうしているのか、余裕がなくてわからなかった。・同じビルでもお休みのところがあった。・横で連携が取れていたらと感じた。 |

平成30年12月11日 12月定例会 グループワーク まとめ

| 項目 | できたこと | 困ったこと | 地域の特徴 | あったら良かったこと |
|----------|--|--|--|---|
| 停電 | ・病院に発電機が備えてあった | ・停電がいつまで続くか不安感。 | (平岸、南平岸) | ・発電機までは事業所で用意するの |
| | のでよかった。 | (特に児童) ⇒早くて7日、遅くて9日(時 | ・電気の復旧が早かった。 | は難しい。(メンテも重要。大変。) ・トランシーバーが欲しかった。 |
| | | 間差があった。) | | |
| | | ・EVが動かず、食事をバケツリ レーした。 | | |
| | | 0 0/20 | | |
| 断水 | ・断水時、出張所で水をもらえ | 病院の水がなかった。 | | • |
| | │た。 │ • 隣のデイケアから水を運んだ。 | | | |
| | | | | |
| 食料 | 缶詰のストック、有効だった。焼肉イベントの前に震災があ | 薬が足りない。きざみ食が大変(きざめない) | (他区) ・コンビニ→アイスを配る | ・食糧を販売している場所の情報が欲しい。 |
| | ったので、イベント感を出して | · BCWRA八及(BCWAVI) | (豊平区) | 保存食があったら良かった。 |
| | 不安を解消した。 ・食糧の備蓄、3日分あった。 | | ・冷蔵庫の食材を外で焼いて配る、販売する店も。 | |
| | | | 3 /L 0. | |
| 情報収 | ・車のラジオ | | | ・普段から事業所見学などお互いにしていきたい。(白石区は就労事業 |
| 集の方 | | | | 所見学会行っている模様) |
| 法など | | | | ・人が集まるコンビニ等で掲示板。 |
| マンショ | | | | |
| ン等での | | | | |
| 移動 | | | | |
| 交通手段 | | | | |
| (社用車 | | | | |
| の活用 | | | | |
| 等) | 107 ± 11 = 1 | | | |
| 利用者 | 紙カルテでよかった | | | 安否確認のツールはないのか? |
| の安否 | | | | |
| 確認 | ・職員の対応、早かった。 | ・空機セットの中自が再物だっ | | ・フルーツ缶はショックで食欲がな |
| 事業所 | - ・ | 避難セットの中身が夏物だった。管理をしていなかった。 | | い時でも食べられるかも。また、あ |
| <i>O</i> | | | | えて消費期限が短い(5年より1年) 物を揃え、普段から食べ慣れておく |
| 体制•備 | | | | 避難セットを管理している人を固 |
| え | | | | 定しない。 ・避難セットは1か所にまとめる |
| | | | | (みんなが分かるようにしておく。 |
| | | | | またみんなが使えるように普段か ら使ってみる) |
| | | | | ・携帯は会社の違うものを2つも |
| | | | | つ? ・長引けば、職員の確保が難しかっ |
| | | | | た。 |
| 事後の | ・製薬会社から簡易トイレをも | | | ・発電機、暖房を購入した。 |
| 対応 | らった。 ・職員にスマホを1人1台配布。 | | | |
| その他 | 近くの事業所とやりとりあっ | ・豊園小学校 (避難所) が機能し | (豊平・美園・旭町) | ・日頃から情報・物の共有ができた |
| | た。 ・地域の人に手書きでチラシを | ていなくて、皆、帰っていったとの話。 | ・事業所の数が多いので、非常時に連携できるように交流を深めていく。 | ら。 ・避難訓練毎月実施で体に染みつ |
| | 配り、昼食を食べに来たり、シ | •経営者として職員にどう指示を | (平岸・南平岸) | <. |
| | ャワーを浴びに来る人がいた。 | 出したらよいか、迷った。 | ・地域に向けて健康相談会をしている。 ・除雪、ごみ拾いなど、普段から地域とつ | ・各種災害があるので、事業所同士 の連絡網(グループライン、MLも) |
| | | | ながりがある。 | ・各事業所の備蓄品のアンケート→ |
| | | | (月寒・東月寒) ・当日、月寒小に50人の方が避難所利用 | 貸出可能リスト作成→案内も ・普段からの繋がりを大切に(近辺、 |
| | | | していた。 | バス停の除雪など) |
| | | | ・月寒公民館が機能していなかった。 | ・事業所情報共有(ライン等)→事 業所同士の管理者が繋がってそこ |
| | | | | から枝分かれ(地区別で集まる) |
| | | | | ・地区別SNS・町内会へ事業所から声をかけて |
| | | | | 「支援計画」作成へ |
| | 1 | 1 | <u> </u> | <u> </u> |